

アジェンダ

1. はじめに
2. 自己紹介
3. あそびばまきは(2010年頃の渋谷の麻雀カフェ?)
4. Kizuna(2025年AI搭載健康促進ペットアプリ?)



はじめに

1. 悪用の禁止

スクショ、録画等は自由にしていただいても大丈夫ですが、悪意を持って利用することはしないでください。

2. いつでも手を挙げて質問してください。

リアクションが見えなくて、一人で話していると不安になってくるので、どんなことでもいいのでコメントしたいこと、質問したいことがあれば挙手をしていただければと思います。その瞬間に思ったことをそのまま口に出してもらいたいです。
(時間に余裕はあると思うので)

3. 興味を持ってくれたらフィードバックをお願いします。

後半に説明するKizunaというアプリはQRコードからメールアドレスのみで登録が可能で利用できるようになります。興味を持った方はQRコードから読み込んでいただき、掲示板でフィードバックをしてけると嬉しいです。すべて必ず返信します。

自己紹介



2003年

2016年

2022年



2003-2015(12年)

主にインテグレーション業務会社にて営業、コンサル、プロマネを経験

- NetOneSystems営業職(6年)
- Dream Learning経営職(4年)
- Dimentiondata営業職(2年)

麻雀カフェ？あそびばまきばを開店

2016-2022(6年)

主にITセキュリティメーカーを経験

- Mobileiron営業職(2年)
- Netskope営業職(3ヶ月)
- Darktrace営業職(合計3年)
- Elasticsearch営業職(6ヶ月)

現在

スマートフォンアプリケーションの開発

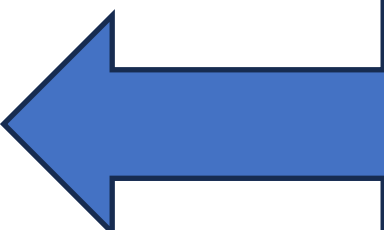
- 鉄人ソフト開発職

健康促進ペットアプリKizunaアプリケーションの開発を企画

私が定義するエンタテイメント

1. 自分の意志で

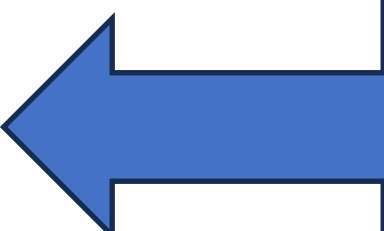
自分のためになると感じる
自分がやりがいを感じる
自分が楽しいを感じる



いわれたことより、自分で決めたことのほうが楽しい

2. 他の人と一緒に

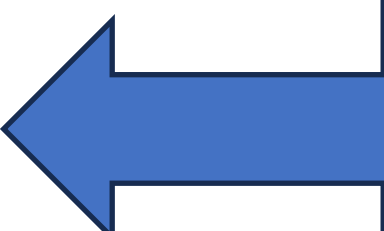
信頼できる人と
同じゴールを持つ共有できる人と
楽しく時間を過ごせる人と



一人よりも誰かと一緒にのほうが楽しい

3. 誰かのために

知っている人のために
世の中の人のために
未来のために



せっかくなら誰かのためになるほうが楽しい



あそびばまきば



1. 麻雀のイメージを改善したい

従業員をアイドル、芸人、声優のたまごでそろえる

カフェっぽい内装と明るい雰囲気

ギャンブルではなく、ゲームの一つとして麻雀を認識してもらう

2. 色々な人の居場所(役割)を提供したい

お客さんが従業員(卵、ひな、ニワトリ、軍鶏と育っていく)に麻雀を教える

従業員がお客さんの中から師匠を選ぶ

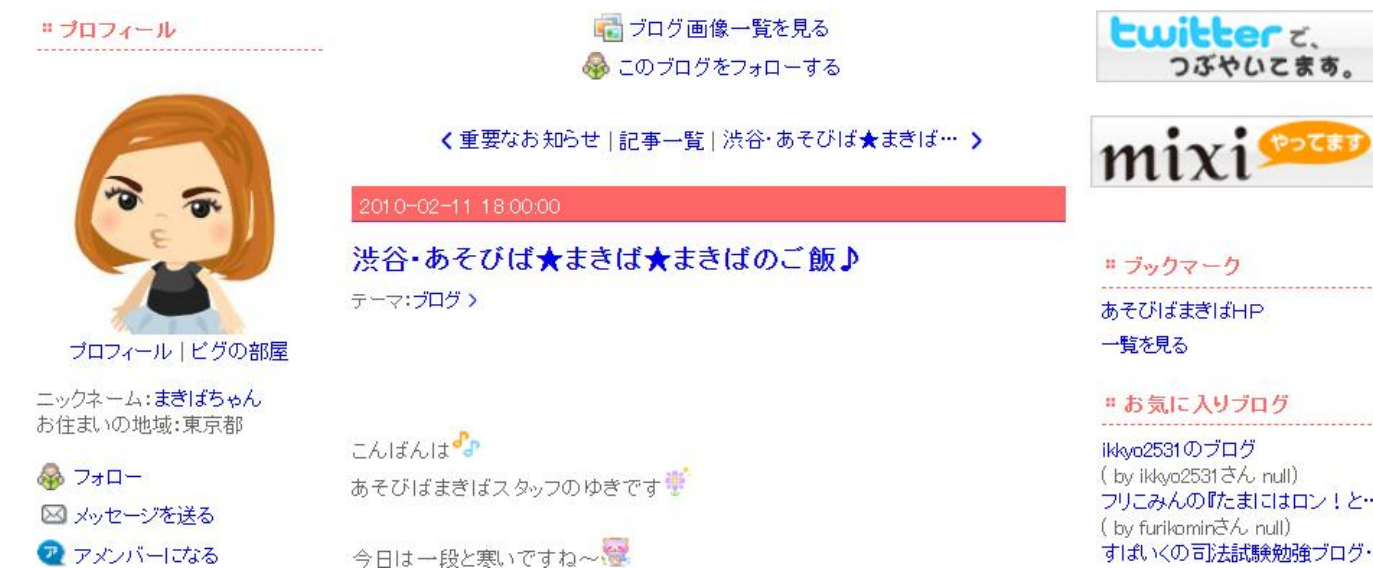
弟子と師匠でペアマッチに参加(上位入賞で従業員のランクや時給が上がる)

3. エンタテインメントの定義を実証したい

自分の趣味を活かして(麻雀)

同じ目的を持つ他のお客さんと(従業員を応援したい)

従業員のために(ランクや時給を上げる)



Ironman soft Inc.

あそびばまきは結果

1. 一部のコアユーザの獲得は成功(ハイライト)

泊りがけで開店前から閉店まで滞在

シャンパンなど入れてお店全体で乾杯してくれる

掃除、ビラ配り、ランチの呼び込みを手伝ってくれる

2. 面倒事が多かった

従業員へのストーキング(個人の問題か?)

師匠に選ばれなかったお客さんのクレーム(客層の問題か?)

(アルバイト)従業員のむずかしさ(お店への愛着がない人もいる)

3. 客数を伸ばせなかった(6か月だけど。。)

もっと広告をすべきだった(知識と準備と検討が足りなかった)

従業員の教育をちゃんとできなかった(もっと時間を作るべきだった)

もっとやれたこともあったけど、怖かった(お金大事)



あそびばまきは反省点

1. 税務上の正しい知識が必要だった

私が税法を理解できておらず、開店資金(内装、家賃、給料など)すべて損金として計上できると誤解していた(内装などは償却期間がある)

2. 店舗経営のノウハウ、知識が必要だった

風俗営業法との闘い(24時以降の営業禁止、個室の禁止など)、
「順位戦」という単語が商標登録されていた。

価格設定をもっと攻めるべきだった

(オムライス800円→オムライス+チェキ1500円など)

3. もっと資金が必要だった

1年間は売上なくても困らない程度の余裕がないと怖くなる

赤字だったり、その日の売上が伸びないと精神的に余裕がなくなる

余裕がなくなると、やりたかったことを実行しない理由になってしまう

Kizunaアプリ開発のきっかけ



1. 自分の分身、秘書、ボディが欲しかった

スマホが普及した時から、自分と同じ生活をする、たまごっちの進化版みたいなものを作りたいと考えていた。

2. 最近のゲームが不満

似たようなゲーム、復刻版が多くて新しい概念が少ないように感じる。

日本が世界に誇れる技術の一つがゲームメイクだと思っていたのに。。

ユーザがアプリの開発に貢献して一緒に作り上げたり、短期的な課金ではなく、行動によって長期的な売上につながるような仕組みを作ってみたい

3. AIとかビッグデータをもっと活用できないのかな？

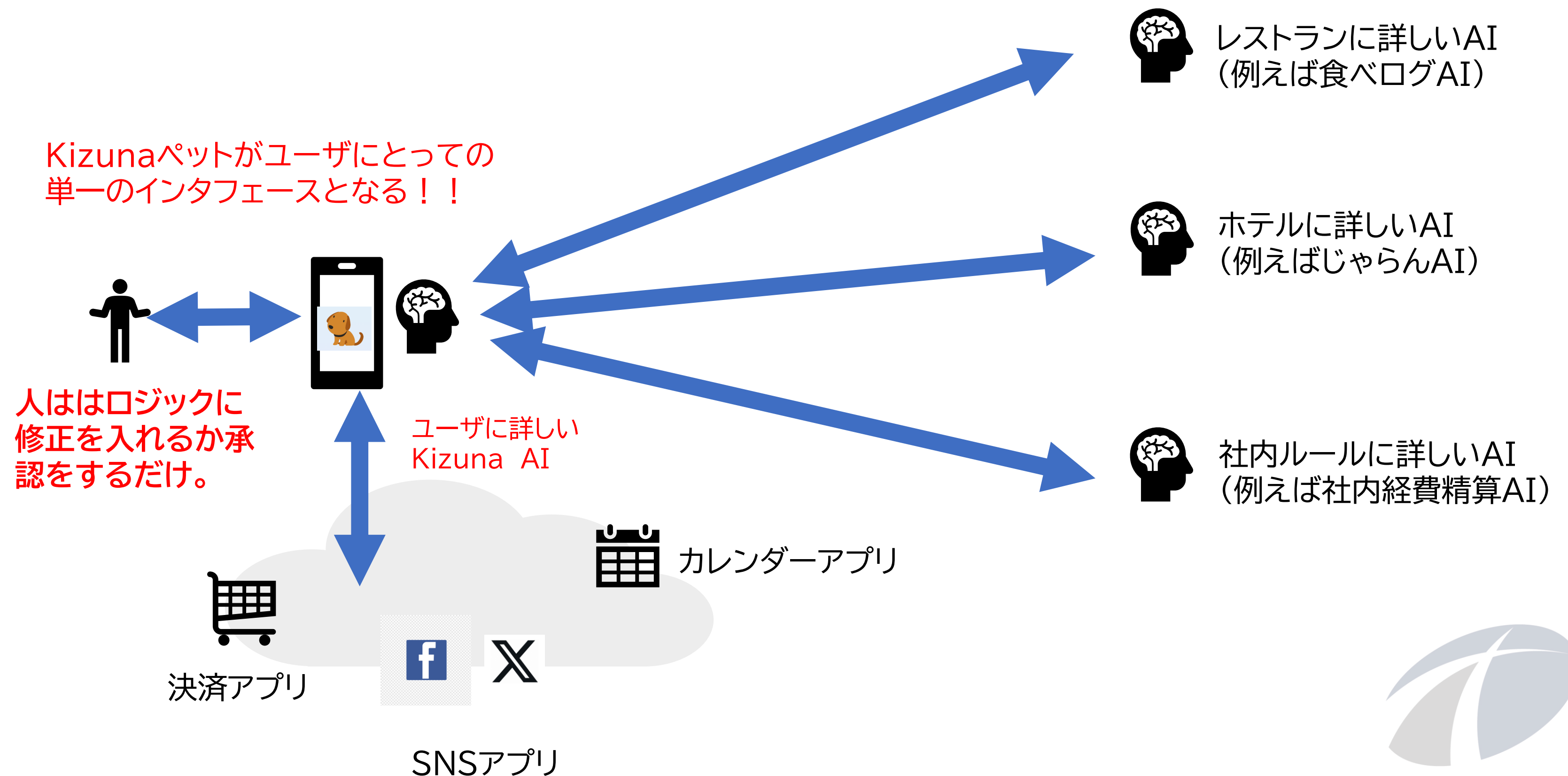
テクノロジーの進化でできることが増えたのに「社内ノウハウの利用」「工数の削減」「AIチャットボット」とか効果が分かりやすいこじんまりしたソリューションが多い。

人の生活や行動の常識を変える、みんなが使うメリットのあるものを作りたい

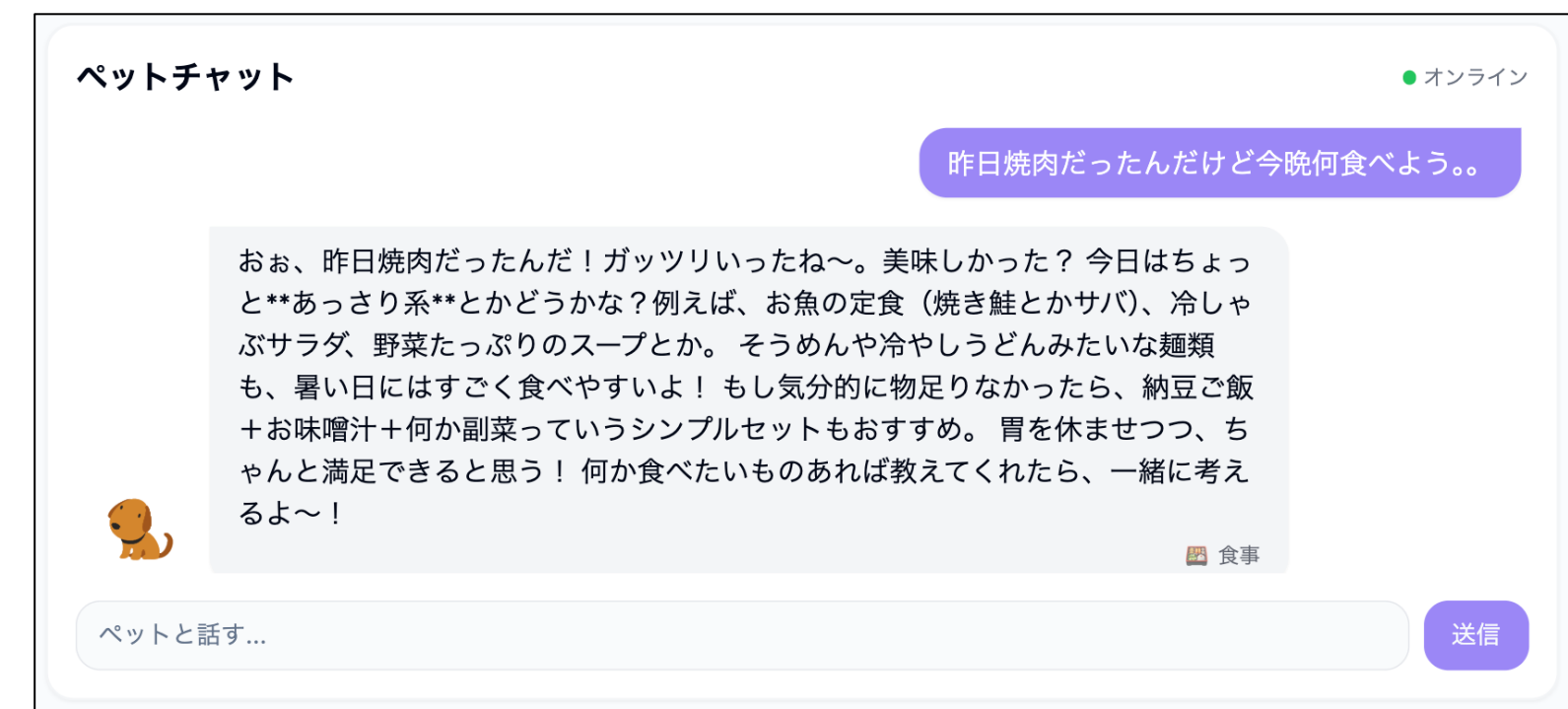


目指す世界

例えば会社の出張で福岡に行くスケジュールをKizunaに伝えることで、交通、ホテル、レストランの予約、社内経費精算の書類作成をまとめて実施してくれる。ユーザはKizunaアプリ上で操作、承認するだけですべての準備が完了する。



Kizuna概要



1. ユーザと同じ生活(運動、睡眠、食事など)をするAIを搭載したペットを飼育する

ユーザと同じ歩数を歩き、同じ時間睡眠をとり、同じものを食べ、その内容に応じてAIを搭載したペットが変化をする(たまごっちの進化版)

2. ユーザの嗜好性、健康状態、持病などを学習したうえで、妥当性のある提案をする

出張先でのご飯などを相談すると、ユーザの嗜好と最近の食事傾向、健康状態その土地の名産、地元の人の評判などを加味したうえで選定してくれる
(食べたものを画像解析して栄養素を算出する。おいしいと評価したものの傾向を学習し、同じ嗜好のユーザの評価を重視する)

3. ユーザのスマホ操作のシングルアプリケーションとなる

Kizunaペットがユーザの意図と嗜好性を理解したうえで様々なアプリ、外部AIと連携をし、結果の承認だけをユーザに求める

目指している機能

1. ホテル予約はKizuna経由
ユーザの嗜好性(大浴場、サウナ、朝食、予算など)を理解しているKizunaアプリがユーザの代わりにホテル予約AI(じゃらんAIチャットサービスなど)とやり取りしてくれる
(例:サウナ付きで、朝食付きで15000円程度で、その日に行くレストランに近いホテル)
2. レストラン予約もKizuna経由
健康状態を加味した「食べるべきもの」と、ユーザの嗜好性に合わせた「食べたいもの」の折衷案を提案してくれる
(例:あまりカロリーの高いものは食べるべきではないけど、今日から野菜を多めにして、せっかく福岡出張いくならもつ鍋を食べよう。)
→という前提で食ベログAIとやり取りをしてくれる
3. SNSもKizuna経由
本人投稿も、(匿名性の強い)ペット投稿でも可能になる。文章、写真加工なども嗜好性に合わせて自動生成してくれ、SNS AIアプリ(LineAIなど)とやり取りして、文章を作成してくれる

今後のスケジュール想定

 あなたのQRコード



このQRコードを友達にスキャンしてもらうことで、フレンド申請を受け取ることができます。普通のカメラでもスキャン可能です。

- 現状
WEB版のイメージサイトは構築済み。
ある企業と新規ソリューションの構築検討中
- 2025年11月
ある企業との合意が完了し、2026年6月頃までに構築する内容を決定
- 2026年1月
本当にこの機能にニーズはあるのか？ビジネスとして成り立つのかを検証開始
- 2026年6月
ソリューションとして一部の機能を提供開始
- 2027年1月
最終形を提供開始



Ironman soft Inc.

皆様へのお願い

ぜひ色々な方とディスカッションをしてより良いものを作りたいと思います。

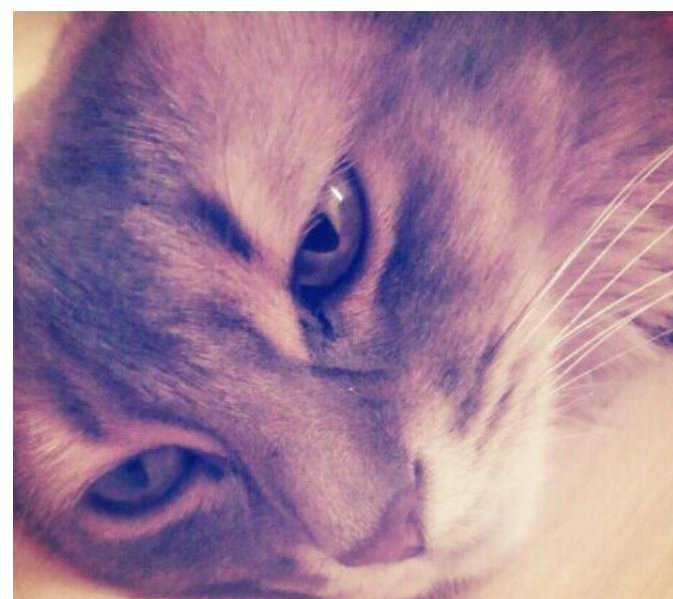
このような個人的なサービスに興味があったり、お仕事としてかかわれる可能性を感じていただければぜひ一度お話をさせていただきたいです。

最近AIの技術やサービスは月単位で新しいものがでてくるし、これからもこの傾向は加速していくと思います。常に新しい技術や考え方を取り入れながら、進化していけるアプリを作りたいと思いますので是非皆様の知恵も貸していただければ幸いです。

📱 あなたのQRコード



このQRコードを友達にスキャンしてもらうことで、フレンド申請を受け取ることができます。普通のカメラでもスキャン可能です。



Line:sanshiro50



Facebook:石田三四郎



Ironman soft Inc.